

20230914_農業ビジネス研究会_議事録

日 時：2023年9月14日（木）19:00-20:30

場 所：Zoom

テーマ：数式ネギ！ 農業×データサイエンスを活用し安定生産

ゲスト：中屋智博さん（彩園なかや代表）

参加者：13人

（NPO 法人理事長、会社経営、会社員、コンサルタント、エンジニア、公務員、
農業大学生、ジャーナリスト、行政書士、司法書士など）

目次：

1. はじまりの物語
2. 彩園なかやと数式ネギの紹介
3. 彩園なかや独自開発の生育予測システム
4. 彩園なかやのミッション

発表：

1. はじまりの物語

数式ネギのはじまりの物語は、東京農業大学の学生の時にカンボジアでボランティア体験をしたところからです。カンボジアの田園風景は素敵でした。みな、楽しそうに笑っていました。しかし、弟か妹を背負った小学校低学年ぐらいの女の子に出会うことでイメージが一変しました。その女の子に「お金ちょうだい」と言われました。子どもが貧困に直面していることに気付き、心にずしんときました。理由を聞くことができず、日本に戻ってから後悔しました。生活するお金もないから、学校に行けません。金銭的な理由で将来の選択肢がないこととなります。そのような人を減らしたいという思いを抱きました。そのために農業を主軸とした事業を立ち上げることにしました。

2010年、東京農業大学に入学しました。きっかけはテレビで、将来、食料危機が起こるといふ番組を観たことです。砂漠での農業に興味を持ちました。大学で勉強していくうちに、それは現実的でないことを理解しました。2014年、HATAKEカンパニーに就職しました。ベビーリーフを生産し、スーパーマーケットなどに卸している農業法人です。そこで、複数地域での生産の立上げを行うことにより、農業の経験を積むことができました。

2. 彩園なかやと数式ネギの紹介

彩園なかやは数式と農業で食卓を支えるネギ専門農家です。提供するサービスには、数式野菜シリーズ、旬の野菜シリーズ、専用野菜シリーズがあります。数式野菜シリーズは野菜栽培とデータサイエンスを組み合わせることで安定的な生産を可能としています。それが数式ネギです。旬の野菜シリーズは旬の野菜を旬の時期に栽培することで本来のおいしさを発揮しています。こちらは旬のズッキーニです。専用野菜シリーズは「その道の職人が考える一番おいしい時期のおいしい食べ方」をコンセプトにしています。たとえば、焼きネギ専用ネギがあります。このよか、おやおやさい配達便、ひつじの草刈隊というサービスも提供しています。おやおやさい配達便は前橋市街の小規模飲食店にこだわり農家の地元野菜を配達しています。ひつじの草刈隊は太陽光パネルの除草作業をひつじが行っています。

数式野菜シリーズを始めた動機は、就農4年目で生計が成り立っていない農家の割合が69%という数字にあります。就農者にとり風水害もリスクになります。たとえば、ネギが台風に遭えば、全滅することもあります。過去のデータから全滅を避けることができないか考えました。農業×データサイエンスです。数式シリーズは過去と経験から未来を見据える農業です。

3. 彩園なかや独自開発の生育予測システム

数式野菜シリーズは A-stat により行っています。A-stat は農場の気象データ、品種基礎データ、栽培実績データから「いつ植えるものがいつ収穫できて、とれくらい収穫できるのか」を計算する彩園なかや独自開発の生育予測システムです。定植日から掲載された収穫日、天災リスクを加味した歩留まり率などがわかります。出荷の端境期を生まないようにすることもできます。安定供給がキーワードになります。

A-stat については、現在、ベースプログラムに気候の傾向を加味するプログラムを開発中です。今後、品種ごとの特性を加味、さらに他の野菜、他の地域に使用できるプログラムに発展させていきます。地域により気象条件は異なります。それに対応させています。また、現在は、構築フェーズです。今後、認知フェーズでは数式野菜シリーズの組織を設立します。安定供給を組織的に実現します。さらに拡大フェーズでは関東、東海、九州、カンボジアへの数式野菜シリーズのフランチャイズ展開を行います。安定供給で農業を次のステージへ押し上げます。新米農家から中堅農家まで想定外に左右されない農業ということです。想定できているリスクであれば、経営的になんとかなります。想定外のない農業にしたいです。

4. 彩園なかやのミッション

彩園なかやのミッションは「一流たれ」です。彩園なかやのファンがその野菜をどうして買うかは一流の先にある何かです。一流である精神感が大切です。たとえば、畑づくりなどにカタチとして現れます。でないと、ファンはついてきません。ヴィジョンは「先人の知恵に新たな視点を加え、常識を深化する」です。過去の経験を数値化し、データサイエンスにより価値あるものにします

彩園なかやの軸は合理化と教育です。ほんとうに正しいか無駄はないかを考えます。これは農業第 4 世代、合理化の世代だからです。第 1 世代は、種を蒔き収穫しました。第 2 世代は、化学肥料を使うことで収穫量を大幅に増やしました。第 3 世代は機械化、集約化により効率化を行いました。しかし、効率化といっても地域性があります。より地域に適した合理化を行う必要があります。彩園なかやはデータを扱うことができるので、先人の築いたものにさらに加え発展させることができます。また、生きる力のある経営者の資質をともに育みます。これからの社会は、言われたとおりにやるだけで生きていくことができません。たとえば、会社がなくなっても、生きていける人になる必要があります。経営、人材、サービスを循環させる教育の仕組みをつくります。

以上